

3・5 WTO

3・5・1 ドーハ・ラウンドの動き

1. ドーハ・ラウンド全体の動き

2001 年 11 月から交渉が開始された世界貿易機関(WTO)新ラウンド(ドーハ・ラウンド)は、海運を含むサービス分野等、計 8 分野での交渉一括合意を目指したものの、膠着状態が続いたことから、2013 年 12 月にインドネシア・バリで開催された第 9 回 WTO 閣僚会議において全分野一括合意を断念し、まずは貿易円滑化・農業・開発の 3 分野での合意を目指す「バリ・パッケージ」の妥結に至った。しかしながら、これまでのところ、貿易円滑化で部分合意に達した以外、サービス分野も含めて大きな成果は得られていない。

2. 海運を含むサービス自由化交渉の動き

海運サービスは過去の WTO 交渉において、サービス貿易自由化に係る WTO 協定(GATS)適用が合意されていない分野であるため、現在のドーハ・ラウンドにおいてサービス分野の一部として GATS 適用に向けた交渉が行われている。

しかしながら、ドーハ・ラウンドでは参加国・地域が多岐に亘る等の理由により、交渉が難航・長期化しているため、2012 年、WTO に加盟する有志国・地域は「新サービス貿易協定(TiSA: Trade in Services Agreement)」策定に向けた交渉を開始、日本も 2013 年から同交渉に参加(注 1)し、海運分野の交渉にも参画している。

TiSA 交渉は 2016 年内の協定合意の可能性も取り沙汰されたものの、一部の分野で交渉が頓挫、2019 年 3 月時点では先の見通しが立たない状況となっている。

注 1:新サービス貿易協定交渉参加国・地域(2016 年 3 月現在)

日本、米国、EU、カナダ、豪州、韓国、香港、台湾、パキスタン、ニュージーランド、イスラエル、トルコ、メキシコ、チリ、コロンビア、ペルー、コスタリカ、パナマ、ノルウェー、スイス、アイスランド、リヒテンシュタイン、モーリシャス(合計 23 カ国・地域(EU 各国を含めると 50 カ国・地域))

3・5・2 WTO 加盟状況

2019 年 3 月現在、WTO 加盟国数は 164 カ国・地域(アジア地域からは 23 カ国・地域)、加盟交渉中の国は 21 カ国となっている(注 2)。

2018 年 8 月、米国のトランプ大統領は WTO が機能不全に陥っているとして、米国の脱退を示唆している。WTO の紛争解決機能の要である上級委員会委員についても、在任 3 名(定員 7 名)中 2 名が任期満了を迎える 2019 年 12 月までに米国が欠員補充を承認しなければ、機能不全に陥る可能性が指摘されている。

注 2:外務省 HP(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/wto/data/kamei.html>)より引用